

---

# 配送詐欺

S E T

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

配送詐欺

### 【Nコード】

N2162T

### 【作者名】

SET

### 【あらすじ】

「付き合ってください」。配送ドライバーの俺に、女はそう告げた。俺は女を詐欺師と決めつけた。

今日の配送は、このアパートで最後だ。これが終われば、あとは  
主管支店に戻るだけ。

ここには何回か来たことがある。送り先の情報と地図とを照らし  
合わせ、間違いないかと確認してから、トラックを降りた。荷台に  
載ったコンテナの中から荷物を取り出し、片手で持った。薄めの封  
筒に書かれた汚い字を見ると、オークションで落としたCD、とい  
ったところだろうか。

アパートの階段を上がり、二階の奥にある部屋で、ベルを押した。  
開けると、狭い部屋のせいで、奥の方まで見渡せてしまった。見え  
るからと言って見るのは悪趣味な気がして、視線の焦点を封筒に合  
わせる。

「サインかハンコをお願いします」

「じゃあサインで」

ボールペンと伝票を渡した。

細くて白い手が視界に映りこむ。綺麗な文字で、佐々木、と書き  
込まれた。俺は、その所作に少し、見惚れる。

そしていつものように、帽子に手を当て、相手の目を見る。  
ありがとうございます。

「あの」

軽く頭を下げて部屋を出ようとすると、女は俺の事を呼び止めた。

「はい、何か？」

「私と、付き合ってください」

「は？」

俺は、自分でもわかるくらい、素っ頓狂な声を上げてしまった。  
目の前の女……見たところ、二十そこそこの女は、にこにここと笑  
みを浮かべて立っている。

「一目見た時から好きでした。付き合ってください」

「付き合うつて、何に？」

敬語も忘れて、訊き返す。

「やだなあ、とぼけないでくださいよ。付き合うつて言ったら、男  
女があれこれ理由付けた末、最終的にセツ……」

「やめろ」

「私、本気ですよ。恥の旅は掻き捨てるの精神で特攻したつもりです。  
一か八かの」

「旅の恥は掻き捨て、だよ。そんなもん旅させたら、公共わいせつ  
で捕まるだろうが」

「あはは、突っ込み上手いですねー。ますます好きになりました。

付き合つて下さい」

「待て」

何を言ってるんだ、この女は。

配達ドライバーだけを狙い撃ちにした新手の詐欺だろうか？ 付  
き合つと言った瞬間に、後ろからこの女の彼氏を名乗る屈強な男が  
現れて、「仕事中に他人の彼女に手出しやがって、就業規則違反  
だろ」と連れ去られ、無理矢理、数百万もする宝石の契約を結ばさ  
れたりするのだろうか？

女日照りの純真な配達ドライバーを捕まえるなんて、詐欺師には  
血も涙もないのか。俺は心の内で密かに憤った。

「指輪つけてませんよね。弾き出される結論は独身。告白を断る理  
由はない。あれ？ 冴えてますね、私」

「冴えてない。結婚してる奴も配達中は邪魔だから外してる。それ  
に、なんで俺が告白を受けることが前提になってるんだよ。付き合  
つてる奴がいるかもしれない」

「付き合ってる人、いるんですか？」

詰まる。うだつのあがらない運送ドライバーという立ち位置で、  
職場の時間が止まったままの俺に、惹かれるような女はなかなかい  
ない。

「こんな奴の、どこがいいんだ」

この怪しげな女の告白を断るため、俺は、自分で自分を卑下してみせた。してみせたと言っても、嘘偽りない本心だったが。

「存在そのものです」

女は、満面の笑みで答える。

女の頭上に浮かぶ、白い縁取りに赤字、極太のゴシック体で書かれた『詐欺師』の三文字が、その回答で砕け散りかけた。

やるな、詐欺師。

冷静になれ、俺。たった数回、荷物を届けに来ただけの俺の存在そのものが、好きになるわけがない。

「詐欺なら他の奴を当たってくれ。俺は帰るぞ、次から、担当も変えてもらう」

俺は冷たく言い放ち、踵を返した。

「違います！ そんなんじゃないです。とりあえず、友だちからでも」

制服の背中部分を引っ張られた。

俺がここまで頑なに疑ってかかる理由？ そんなの、言うまでもない。

「あんなあ。そうじゃなかったら何なんだ？ 俺は今年で五十歳に

……」

「私、年上じゃないと駄目なんです。有体に言つと、くたびれかけたジジイが専門分野です！」

また、笑み。

親子ほども年の離れているはずの俺に対し、気後れすることなく、笑顔で毒を吐く女。少し興味がわいてしまった俺を、誰が責められるだろう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2162t/>

---

配送詐欺

2011年10月6日18時08分発行